

体育学部武道学科

〔教員養成の目標〕

体育学部武道学科では、武道の特性と武道教育に期待されている人間陶冶や人間形成といった「道を求める武道」並びに「科学性を伴った武道」の在り方を実践し、国際社会に貢献できる人材育成及び国家意識や国威発揚のための競技力向上に係る教員や指導者を育成することを目的としている。これに基づき以下の能力を有する教員を養成する。

1. 武道の理論や形や技術、トレーニング方法や指導方法のについての専門的知識と人として必要な教養を身に付け、その上で、高い競技力を身に付けるとともに、4年間で学んだ学修成果を活用し、誠意と礼儀・作法を有する教員
2. 修得した武道の知識・技能をもとに、他者に分かり易く理解させる表現力と、武道に関する高い専門性を有し、社会や地域社会、保護者等から信頼され、様々な要請に応えられる教員
3. 競技力や武道の特性を学び続け、絶え間なく人格の錬磨を図ることで、自ら地域社会の充実発展に貢献できる教員
4. 武道の専門性を高めるとともに、忍耐、克己、優輝、礼節を重んじる教員
5. 武道の段位（四段）を取得している教員。

〔当該目標を達成するための計画〕

体育学部武道学科の教員養成の目標を達成するために、教育課程の編成においては、学習効果を高めるために幅広い講義や武道だけでなく保健体育科の教員としての必要な実技、武道の実技、実習等をバランスよく配置する。

具体的には、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い人間性を涵養し、専門分野と調和・発展させることを目的とした共通教育科目を設置し、外国語科目ではコミュニケーション能力の充実と専門的英語知識を学ぶ「武道実践英語」を設置する。

さらに、学科基礎教育科目に、武道の文化伝統及び科学的特性を学ぶ科目を設置する。

また、武道における社会活動を実体験する「地域武道実習」や、グローバル化に対応した能力を養い、国際感覚を体得するための「海外武道実習」等の科目を設置し実践力を養う。

学生はこれらの大学における4年間の学びと学外における実践的な学びを通して、教師に求められる資質能力を身に付ける。